

“TERRADE MADIE”



短篇集 * Pre.

TIERRA DE NADIE

短篇集



南風野さきは

廻るという事象の果てに

(聖レイエス教会附属文書館蔵『コートロック碑文』)

TIERRA DE NADIE

短篇集

CONTENTS

- 不確かな存在でも確かなのは 5
(お題提供)『融解』<http://90.xmbs.jp/ghostx96cat/>
- 古びた寓話は好きかしら 9
『オーヴァードーズ』<http://notbible.1.tool.ms/>
- そして今、惑溺の彼方に躊躇を脱ぎ捨てる 17
『Propaganda』<http://m-pe.tv/u/page.php?uid=propa&id=1>
- 有か無かの世界で待つ黒猫は 23
『オーヴァードーズ』<http://notbible.1.tool.ms/>
- どうか世界が彼に優しくありますように 31
『彼女の為に泣いた』<http://rura.4.tool.ms/>
- あなたは何も語らない 37
『浮世フレイズ』<http://nanos.jp/ukiyophase/page/1/>
- すべてが嘘吐きならいいと願った 43
『彼女の為に泣いた』<http://rura.4.tool.ms/>

どうか世界が彼に優しくありますように

--Ferran Rufete--

お題提供『彼女の為に泣いた』* <http://sua41oolms/>



【登場人物】

フェラン・ルフエテ　ファイアナ騎士団所属騎士
ジヨゼフ・キャンティロン　フェランの従騎士
オルタ　占い師／カリイ

【作中用語解説】

メルヴイル

帝国東部の歓楽の街

カリイ

舞踏と放浪の民

碧の目を持つ

ヴォルガ河河畔の街シルザの、ファイナ騎士団本部の一室。

跳ね癖のある金茶の髪をゆるく束ねた青年が、ひとりで何かを納得したらしく、腕を組んで頷いた。痩せているわけではないのにひよろりとした印象の青年の前で、ブルネットの髪の少年が首を傾げている。

「よしー！」

ぽんと、青年が手を打った。

「俺の従騎士たるジョゼフ君。今日は聖務を抜け出して遊びに行こう。あ、これ、師匠命令だから。抗命は無しね」

はあ、と、少年が気のない声を震す。にこにこしながら少年に命じる、ファイナ騎士団所属の物腰やわらかな青年は、名をフェラン・ルフエテといった。

朝に微睡む歓楽の街は、街並みそのものが気だるげに映る。メルヴィルの片隅の、安宿の並ぶ一角。一軒の宿に滑りこみ、受付を素通りして、青年は階段へと歩を進める。ひとひとりと擦れ違うことも困難な狭い階段には、泥酔した客や盤を挟む老人たちが陣取っているから、慣れた歩調で進む騎士の背を追う少年は、いささか難儀していた。

その時、階段をのぼる青年に、安宿の住人らしい女から声がかかった。

「あら、お久しぶり」

「おはよ、お久しだね。お疲れさま？」

「お疲れさま」

「ゆつくり休んで」

ありがとう、と微笑む女の目が、追いついてきた少年を捉える。女が問いを投げた。

「その子は？」

「俺の教え子」

「あなたが先生ねえ」

「疑わしげな目しないでよ。失礼だなあ」

からから笑う女に手を振って、青年は足を踏み出す。その背中に、女は声を投げた。

「またね、カリイ」

「カリイ？」

青年を追いかけようとした少年が歩を停める。不思議をたゆたわせる眩きに、騎士の背中を見送る女が答えを与えた。

「この上に住んでる娘がね、カリイなの。それで、その娘のことが、あの子、ごく鼻屑なわけ。この街じゃ珍しくはないけど、あの子は呼び名すら教えてくれないから、みんな勝手にそう呼んでるのだけだ。通称みたいなものね」

「ジョゼフ、置いてっちやうよ」

踊り場で振り返った青年が少年に手を振る。青年の金茶の頭が見えなくなる前に、少年は慌てて

階段をのぼり始めた。

「おはよう、フェラン。今日は何をお望み？」

安宿の最上階にて師弟を出迎えたのは、熟れ滴る果実のような、淡い褐色の肌の、豊かな黒髪を波打たせた女だった。

開け放たれた窓から吹きこむ風が、壁を覆う極彩の布を揺らし、床や棚に並べられている、曲線を描く木板に張られている弦を爪弾く。風に遊ばれた金属がささやかな音を奏で、少年は初めて見るそれが楽器であることに気がついた。

長椅子に座っている少年の背後で、椅子の背凭れに組んだ腕を載せていた青年がふわりと笑う。「それは後のお楽しみ。今日はこの子を紹介しようと思って」

果物が山積みになった皿を持って戻ってきた女に、青年は眼を向ける。

「この子はジョゼフ・キャンティロン。俺の従騎士」

やわらかな騎士の声音に、女は楽しげに切れ長の碧の目を細めた。

「はじめまして、ジョゼフ。私はオルタ。ここで占い師めいたことをしているの」

「他にもいくつか顔を持つてるけどね、彼女は」

長椅子の前の卓に皿を置く女を目に映したまま、はあ、と、少年は曖昧な返事をする。そんな少年になどかまわずに、騎士は部屋を横切ると、壁に掛けられていた楽器のひとつを手にした。

「例えば、楽器の先生、とか」

優美な曲線を描く弦楽器を、騎士は掲げてみせる。

「フィドル、彼女に習ってるんだ。息をするように旋律を紡ぎ、舞踊を友とする、放浪の民。そんなカリイたる彼女がここにいるんだ。他の誰かに習うなんて、もったいないだろ？」

騎士はフィドルをかまえ、その弦を弓で撫でる。

そして。

「笑わないの」

ふてくされた騎士がふたりを睨んだ。少年は背凭れに両手を載せ、半眼で師匠を見つめている。

「前振りが豪華だったから、期待しちやっただじやないですか。それじゃあ楽器が可哀想ですって」

「子どもは残酷だなあ」

「嘘泣きしても事實は覆されません」

「こんな師匠なのに、しっかりした従騎士さんね」

涼やかに笑う女に、騎士は力無く肩を落とした。

「オルタ、それはどういう意味かな？」

窓から覗く空は晴れていて、雲が穏やかに流れていく。そこから零れていったぎこちないフィドルの旋律は、まどろみにたゆたう街の片隅に転がって、朗らかな談笑に紛れていった。

(どうか世界が彼に優しくありますように〜歓楽の街)



TIERRA DE NADIE 短篇集

著(描):南風野さきは

発行 :片足靴屋/Sheagh sidhe

初出 :片足靴屋/Leith bhrogan

URL : <http://id12.fm-p.jp/20/LIR/>

(第一幕・第二幕、完結済)

(2012.06.24 現在、ロスカダ第二章展開中)

(書き下ろし『あなたは何も語らない』)

印刷所:コミックモール(文伸印刷株式会社&CQB.JP)

Title(敬称略/五十音順)

『Propaganda』<http://m-pe.tv/u/page.php?uid=propa&id=1>

『浮世フレイズ』<http://nanos.jp/ukiyophase/page/1/>

『オーヴァードーズ』<http://notbible.1.tool.ms/>

『彼女の為に泣いた』<http://rura.4.tool.ms/>

『融解』<http://90.xmbs.jp/ghostx96cat/>

- ※ 著作権は著者に帰属いたします。
- ※ この物語はフィクションであり、実在の人物・団体・事件等とは一切関係ありません。

TIERRA DE NADIE 短篇集(Pre.)

<http://p.booklog.jp/book/52112>

著者：片足靴屋/Sheagh sidhe

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/leithbhrogan/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/52112>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/52112>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ